



「就職活動サポートスタッフ」がお届けする

就活サポート新聞 〈第1号〉

9

2023

皆さんは将来入社したい企業がすでに決まっているだろうか。明確なゴールや夢を持ち就活に励む学生より、就活に追われて企業を探す学生が多いように思われる。私たち就職支援サポートスタッフは、長崎県立大学の皆さんがよりよい就職活動を行えるよう、企業情報を発信することでサポートしたい。今回は記念すべき第1弾企業紹介である。

企業紹介（1）【税理士法人内田会計事務所】

長崎最大手の会計事務所

記念すべき第1社目は内田会計事務所。長崎県内最大手の税理士・会計事務所グループである。今回、総務部長 内野 敦史さんに取材させていただいた。内田会計事務所の特徴として真っ先に言えることは地域に密着した企業である点。雇用もクライアントも地域に密着している。地元の中小企業を支援することで地域の活性化に貢献したいという思いがあるそうだ。内野さんは総務の仕事だけでなく、IT 関係の社内外支援や経理代行などにも携わっている。内野さんにとって内田会計事務所は3社目の会社。大学時代1社目の就職活動はスムーズに進んだそうだ。パソコン自体が少なかった当時、パソコンを使用して卒業論文を作成した経験が、コンピュータ部署へ配属されるきっかけとなった。2社目もパソコンスキルを活かした仕事に就き、その後、縁があり内田会計事務所に入社。

大手会計事務所の魅力は「色々なことを学べ、目にし、たくさんの業種の方と関りを持てることだ」と前のめりに答えた。会社によって考え方が異なり、思い思いの経営理念があることは面白いと教えてくれた。

就活のポイント

多くの会社があり、選択の幅が広いなかのように会社を探せばよいのか悩んでいる学生も多いだろう。どのような視点で企業探しするべきか聞いたところ「まずは色々な会社を見て、自分の選択肢を広げておくことです」と優しく答えてくれた。大学生の時代は色々な会社を見学する特権があり、それは今しかないという。自分のなかの業種のイメージや選択肢を広げてほしいと語りかけた。また、入社前後で企業にギャップを感じないようにするために内から企業を知る機会を作ると良いとアドバイス。外からと内からでは仕事のイメージが異なり、そのギャップを受け入れられるのかどうか重要だといった。

では次に、就活の面接時に大切なことは何だろうか。内野さんの就活がうまく進んだ要因はパソコンの使用経験以外にも何かあると思うか尋ねたところ、「印象が良かったのかな。あと雰囲気」と微笑んだ。就活において大事なポイントは雰囲気だと語る内野さんは「一緒に仕事をしたいと思わせることが実は1番大事」と語る。仕事は人と人との付き合いであるため、印象は大切だと付け加えた。何をもち良い雰囲気を感じるのか。それは一生懸命さだと言う。「事前に関心を持ち、同じ業界の状況を勉強してきた学生の答えは違う。勉強のやる気は仕事にも通ずるため、このような人を選びたい」と話した。

大学生へのメッセージ

大学生に戻れるなら資格の勉強をたくさんしたいという内野さんは、大学は社会経験をする場であってほしいという。「今自分が持っていることを1歩でも半歩でもいいから踏み込んでやってみてほしい」と続けた。自分の中でこまめでいいやと限界を作っている部分がある。そこを1歩進むことでその先が見え、またその先が見えてくる。良い循環を大学時代に作っておくことで、世界がどんどん広がっていくと心強いメッセージをくれた。

(編集後記)

今回、企業紹介第1弾で内田会計事務所取材できとてもうれしく思う。私自身、会計業界に興味があるためすぐ貴重で楽しい取材であった。取材では大学時代の過ごし方や就活のポイント、内田会計事務所の魅力について聞くことができ、今後の参考にしたいと強く思う。また、この記事が長崎県立大学の学生の皆さんが目にし、少しでも役に立てばと思う。

【記事担当：経営学部1年】

「リクナビ仕事万博2025」レビュー ※会場:博多国際展示場&カンファレンスセンター

6月25日(日)にインターンシップ・1day 仕事体験が探せる合同企業説明会「リクナビ仕事万博」が開催されました。会場では、九州電力やトヨタ自動車九州、西日本鉄道、LINE Fukuoka など120社以上の企業のブースだけでなく、就活準備や選考に役立つ業界研究や証明写真撮影コーナーも設置されていました。事前に配られる会場マップや企業一覧、タイムテーブルが記載されたイベントガイドを見て気になる企業をチェックし、30分1ターム(説明20分+移動時間10分)で話を聞きたい企業のブースを回ります。午後の部は10タームあり、前半・後半の2回配布される整理券をその企業ブースで受け取り、時間になったらブースへ行き話を聞きました。人気の企業は整理券がすぐになくなり、立って話を聞いている学生も多かったです。また、この万博では「リクナビ 2025」というアプリをダウンロードすることで、企業の出席登録やその企業のインターンシップや仕事体験のエントリーができました。

私は、十八親和銀行、タップカンパニー、ナフコ、西日本鉄道の4つのブースで、企業理念や事業内容に加え、インターンシップや仕事体験の説明を聞きました。企業の担当者の方とも距離が近く、話を聞いたり質問したりしやすかったです。【記事担当:2年経営学部】

就活サポートスタッフが参加した セミナー・イベントレポート

この記事では低学年で就職ガイダンスにまだ参加したことがない方や就職ガイダンスに興味はあるけど参加したことがない高学年の方に向け、就職ガイダンスでどういったことが就職活動で役に立つのかお伝えしていきます。

【就職実践セミナー】「ES対策に取り組もう!」レビュー ※会場:図書館多目的ホール

私は6月14日、就職課とマイナビが主催する3年生向けの「就職実践セミナー」に参加しました。セミナーの内容は毎回違っており今回はエントリーシート(以下ESと略する)の書き方やコツなどについての内容に触れながら実際に企業の方にも分かりやすいESの内容や就活生のESで知りたいことなど企業目線のお話なども聴くことができインターンの選考に重要となるESの質が格段に良くなるものばかりでした。

例えば、就職活動を意識している人は「学チカ」という言葉を聞くとと思いますが実際に企業が求めている学チカの内容とはいったい何なのでしょう。

結論から言うと、実は学チカの内容でこれを言えば間違いのないようなものはありません。もちろん海外留学や起業についての経験を話せばパーソナリティを表しやすいのことはありますよ。しかしそのような内容はお金がないと経験することができず全ての学生が参加・体験したいといっても無理な話ですよね。だから学チカの内容は本当に自分の打ち込んだことでいいのです。アルバイトや勉強、部活動など他の学生も行っていることで構いません。重要なのはその経験からあなたが学んだことが何なのか。またなぜあなたはそれが大切なことだと思ったのかなどを企業に伝える力です。

これらをしっかり伝えることができればESだけでなく面接にも活用できます。

自分の考えを伝えることの重要性がわかるお話でした。

今回、私がセミナーに参加してみても感想は就活に対するモチベーションが向上した点がとても良かったです。セミナーに参加している方は既に就活を本気でやっている人や、何か始めなくてはいけないと思い行動を起こし始めた就活ビギナーの方々など様々な人たちがおられます。その中に自分の身を置くと自然と自分も何か始めなければいけないと思うようになりました。自分の身を置く環境の大切さが分かります。

「就職実践セミナー」は、3年生だけでなく1、2年生の低学年の層の人たちも参加可能です。是非行動に移すところから始めてみてはどうでしょうか。【記事担当:地域創造学部2年】



コラム 本紹介



「webテスト対策、何やったらいいかわからない人」必見!
問題の解き方解説後に演習があるため、身に付きやすい!毎日息抜きがわりに少しずつやれば、必ず力になります!ちょっとずつ前に進んでいこう~!

【記事担当:経営学部4年】

あとがき 予告

就活サポート新聞 第1号は、就職支援サポートスタッフの1・2年生が中心となって、作成してくれました。これからも就活を終えた4年生と一緒に就職活動に役立つ話題を隔月でお届けする予定です。

就活でのちょっとした疑問などがありましたら、就職課までご連絡ください。

ちなみに、今回リクナビのイベントに参加した学生が参加者の服装をチェックしたところ、スーツと私服の割合は7:3程度だったそうです。

【記事担当:就職課職員】

第2号予告

- ① 企業紹介(2)
- ② 4年生の振り返り(複数人のインタビュー紹介:3年時の就活が中弛みするこの時期をどう乗り切るか)
- ③ コラム:1年生も将来のために頑張っている!(セブ島の研修の様子など)